

令和5年度第1回夕張市総合教育会議 会議録

1. 日時 令和6年2月21日(水) 16:00 ～ 17:20
2. 場所 拠点複合施設りすた 多目的室1
3. 出席者氏名

夕張市長	厚谷 司
夕張市教育委員会教育長	小林 広明
委員	伊藤 慎一
委員	鈴木 ゆずり
委員	外尾 真一
委員	前川 えみ
4. 欠席者 なし
5. 会議に出席した職員の職氏名

市長部局	
総務企画課長	芝木 誠二
総務係長	佐々木 裕介
教育委員会事務局	
教育課長	堀 靖樹
学校教育係長	村井 啓佑

《開始 16:30》

●芝木総務企画課長

定刻となりましたので、ただいまより令和5年度第1回夕張市総合教育会議を開会いたします。
本会議の事務局であります市総務企画課長の芝木と申します。
開会に当たって市長よりご挨拶をいただきます。

●厚谷市長

本日は令和5年度第1回の夕張市総合教育会議の開催ということでございまして、教育委員の皆様方におかれましては定例の教育委員会終了後、このような形で引き続き会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

既にご承知いただいていると思いますが、総合教育会議は平成27年4月に地方教育行政法が改正された際に、全ての地方公共団体に会議設置が義務付けられ、法に基づき市長であります私と教育委員会の皆様とで構成されておるわけでございます。

実は本市における会議について、平成27年度に教育大綱を定める際に開催して以降しばらくが開催をしておりませんでした。今般8年ぶりに教育大綱を見直すべく皆様方にお集まりをいただいたところでございます。

この教育大綱見直しの概要につきましては、別途事務局から説明をさせていただきますが、皆様からどうぞ忌憚のないご意見を頂戴したいと考えてございます。

本日の会議にあたりましては、何とぞよろしくお願い申し上げます。

●芝木総務企画課長

市長の挨拶にあつたとおり、この総合教育会議につきましては市長、それから教育委員会の皆様で構成されております。

会議の進行に当たりましては、事務局である総務企画課の方で務めさせていただきます。

本日の議題は報告事項が1件、協議事項が1件、そしてその他となっております。

●芝木総務企画課長

まず報告事項ですが、『総合教育会議の設置要綱の一部改正について』であります。

資料1をお開きください。

本市の総合教育会議設置要綱につきましては、平成27年に改正地方教育行政法が施行され、その第1条の4各項の条文に則った内容となっており、平成27年に開催された本市の総合教育会議において確認をいただいたものでございます。

今回、要項の一部改正を行った内容は、本会議の庶務を担う総務課が、昨年7月に市の機構改正を行ったことにより名称を総務企画課に改称したことに伴い、かかる条文を改めるものでございます。

会議の所掌事項やその他手続きに関わる改正ではない、いわゆる軽微な変更であることから、会議に諮ることをせずに報告にとどめたものでございます。

これにつきましては質問はないということでよろしいでしょうか？

●全員

(異議なし)

●芝木総務企画課長

ありがとうございます。

それでは続きまして、協議事項『夕張市教育大綱の改正』について説明をいたします。

まずこの教育大綱見直しにあたっての経過と方向性を説明させていただきます。

先ほど申しましたとおり、平成 27 年 4 月に、地方教育行政法が一部改正されたことによって、地方公共団体の長は『地域の実情に応じて、教育、学術および文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定める』こととなりました。

そこで総合教育会議の論議を経た上で、平成 27 年 11 月に今の夕張市教育大綱を定めたものでございます。

教育大綱を制定した平成 27 年以降の情勢については、

令和 2 年 4 月に小学校の新学習指導要領の全面実施、令和 3 年 4 月には中学校の新学習指導要領が全面実施となっております。

この指導要領につきましては教員の働き方改革も推進され、教育改革、教育環境の整備というものがすすめられているところでございます。

また令和 2 年以降、皆様ご承知のとおり新型コロナウイルスの感染症の拡大による教育活動にも影響が出ました。

これによって対面学習が制限されたり、オンライン授業が一部進められたところです。

また本年 4 月には、今年 4 月に小中一貫教育というのが本格的にスタートする見込みとなっております。

また、社会教育の分野に関しましては、令和 2 年 3 月に拠点複合施設りすが供用開始され、現在においても生涯学習活動の重要な拠点として位置づけられております。

さらに、本市においては夕張高校存続を大きな目標とした高校魅力化事業にも取り組んでおり、また市内の小中学校や市外に向けても活動が広がっているところでございます。

今回の教育大綱の見直しの方向性としましては、先に大綱を定めてからの情勢の変化に適応し、夕張市の各種計画との適合性にも配慮した見直しを行うものです。

それでは資料 2 をお開きください。

今回大綱の見直し案を作成するにあたっては、教育長を初め、教育委員会事務局との入念な打ち合わせにより策定したものでございます。

今回、大綱を見直すにあたり、他の自治体も参考にした上で、『はじめに』という項目を設け、そこに 3 点『夕張市教育大綱の位置づけ』『関連計画との整理』『大綱の実施期間』を新たに付け加えました。

次に、基本理念に関しましては、『自然豊かな緑の大地と炭鉱の歴史』というフレーズを残し、『他者と協働しながら学びに向かい、最後までやり遂げ、新たな価値を創造』という文言を加えております。

また、『心の市民生活が心豊かなものとなるよう～』の次に『多様性を尊重した』という今の情勢も反映した文言を入れております。

次に基本目標については大きく 4 点ございます。

1 点目が、『子供たち 1 人 1 人の学びを支え、可能性を伸ばす教育の推進』として、

具体的に 4 項目『小中一貫教育の推進』『確かな学力の向上と定着』『豊かな心と健やかな体の育成』『特別支援教育充実』、

2 点目としましては、『つなぐ学びを充実させる教育の推進と質を高める教育環境の確立』ということで『学びをつなぐ』というのを一つのキーワードとさせていただきます。これにぶら下がる3つの項目として、『幼児教育から高校卒業まで切れ目のないつなぐ学びの充実』、『夕張高校魅力化プロジェクトの推進』、『教師の指導力の向上と働きやすい環境の整備』という項目を入れさせていただきます。

3 点目は、『信頼される学校づくりと地学協働、学びを生かす地域社会の実現』として、『信頼される学校づくり、地域の風が行き交う学校づくりの推進』、『学校運営協議会や地域協働本部との連携充実』『地域の教育力の向上と協働促進』を挙げました。

4 点目は社会教育の推進ということで、こちらは若干の文言修正を行った他はこれまでと趣旨を変えておりません。

以上、教育大綱の見直しについて説明を終わります。皆様から忌憚のない質問やご意見を伺えればと思います。

●外尾教育委員

基本理念の3番目に『多様性を尊重した』を付け加えた趣旨は？今の時代で『多様性』とどうしてもLGBTQを想像してしまうのだが。

●芝木総務企画課長

多様性については、それぞれの受け止め方もあると思います。もちろんLGBTQは外せないと思いますが、赤ちゃんからお年寄り、これも一つの年代の多様性です。

夕張では外国人の方は少数ですが人種の多様性もあると思います。

そうしたものを包含して『多様性』という言葉を使わせていただきました。

●鈴木教育委員

ここにふさわしい意見かどうかはわからないんですけど、『郷土の文化や芸能の保護』という文言が基本目標にあります。

現在の本市の状況は、人口減少や高齢化により文化団体や芸能協会がどこも解散・存続の危機にあり、団体というのは個人に特化した形にスライドしていくのかな、と考えています。私が所属している団体も私が若手になっており、私たちの年代がいなくなったら次につながっていかない、という危機感を持っています。

先日、夕張太鼓の修理代をクラウドファンディングで出すという情報を得ましたが、本来そういうのはどうなんだろうか？という気はします。

●厚谷市長

夕張太鼓については、前会長を務めていたこともあり話は知っているので、ちょっとその辺りの背景・事情もお伝えしたい。

いろいろ市として文化の保護に当たるときに、自分たちの財布から出す(市から補助する)前に、国や道といったほかの団体の財政支援があるかどうか探ることが前提となります。今回の件で言えば、公営の自治宝くじの売り上げの一部を社会活動へ支援するメニューがありまして、夕張太鼓に限らず太鼓の団体はそのメニューを活用して太鼓を買ったり直したりしてるっていう例が多いものと承知しています。

よって、その事業支援のメニュー活用について確認してほしい、と夕張太鼓の代表の方にお話していました。

しかしながら、応募者多数により順番となり今回対象にならなかったと報告を受けての今回の判断に至ったと聞いています。だいたい5年に1回程度補助の順番が回ってくるそうです。

●小林教育長

団体の方も、困った困ったっていうこと、それで道を失わないように、やっぱり相談体制を確保すること、その中でその時点でできる何かっていうことは、常に真剣に考え対応していきたいと考えています。

●伊藤教育委員

基本理念のところ、『市民生活が豊かになるよう～』の一文が気になる。何かしっくりこない。もうちょっと良い言い回しがないだろうか？いわゆる多様性って言葉がここにあるもの腑に落ちないです。

●外尾教育委員

『市民生活が心豊かになる』っていうのは、おそらく生涯学習だとか社会教育分野としてはよるしいフレーズなのかと思います。

その上で、伊藤委員がおっしゃるのが『身近に文化の風』『多様性』とどうつながっていくのか、がしっくりこない感じだと思うんですね。

●小林教育長

『多様性を尊重』というフレーズは、第7期社会教育の中期計画の中にある言葉なんですけど、社会教育分野に関する総合的な言葉で、今この多様性を尊重したというものになっています。

●外尾教育委員

『多様性』を使うのであれば1ポツ目に入れた方がまだ良い。

●前川教育委員

お年寄りや寝たきりの人、移動できない人もいる。そうした人たちも文化を楽しみたいと思っていると考えます。そのような人たちに向けた思いやりの言葉も付け加えられたら。

あと、文化協会と芸能協会は別組織なのですが。

「夕張文化」という文言だと文化協会の冊子と混同します。

●芝木総務企画課長

これまでの皆さんの意見をまとめると、

- ・基本理念の2ポツ目の「多様性を尊重した」を1ポツ目に入れて文言整理する。
- ・2ポツ目については、「誰もが楽しめるような」趣旨を付け加えて文言整理する。

ここでいう文化は「芸能」を包含する文化であることから「夕張の文化」とする。

そのようなかたちでよろしいですか。

●各教育委員

異議なし

●鈴木教育委員

次に基本目標の方ですが、

括弧4の①の「郷土の文化や芸能を保護し」というフレーズ。「保護」ってことどうしてもお金が絡むし、上からの視点では。

●外尾教育委員

ここでは文化と芸能を分けて表現しているので、基本理念と整合性を取るのであれば文化に統一すべき。

先ほどの保護については、「つなぐ」「継承する」といった文言で整理したらいかがか。

●芝木総務企画課長

この点も含め文言修正し、委員の皆様にも再度送ります。

他にご意見ございませんか？

なければ、この教育大綱の改正に係る議論はこの程度に納めます。

最後に「その他」として皆さんから意見を伺えれば。

●鈴木教育委員

りすたにグランドピアノを置いてほしいという趣旨では決してない、ことを予め言うておきます。

りすたに何度かグランドピアノを移動させていますが、最近ピアノを弾いた際に異音がすること気が付きました。右のケーブルを踏むと金属音のようなものがします。

●厚谷市長

調律師に相談します。

●伊藤教育委員

(教育とは直接関係ないのですが)ラピダスの千歳進出が決まり、千歳含め周辺はずごく活気づいているように感じている。一方で夕張市はその波に乗り遅れているように感じるが工場誘致等で動いているのか？

●厚谷市長

直接のお答えにならないかもしれないが、市内の工業団地は実は全て売却済みであります。しかしながら、団地を取得した方がいいが、まったく工場立地していないところ、工場があっても稼働していないところが散見されるのも事実。まずそういったところに事業実施の意思確認をするとともに、意思がないのであれば次につなげる手立てを打つための手続きを新年度行い、企業誘致のための地盤づくりを行おうと思っております。

一応やっぱり市としては、企業誘致するためには条件提示をしっかりとしないといけないと考えます。土地はこのぐらいで買えますよだとか、千歳からのつらいついていうのは例えば授業何人いた場合、どういった住宅を提供できるかとか、インフラも披露した場合にどのようなっていうようなものをまとめながら、いわゆる営業を行っていく予定しています。

●外尾教育委員

本日の新聞記事に夕張高校の生徒が掲載されていましたが「全国で2人のうち1人」に選ばれるのは大変名誉なこと、夕張高校魅力化においても大変有益なニュースだと思う。現在市外からも生徒を募集しているうえでこういった情報をどんどん全面にだしていけばよろしいのでは？

●厚谷市長

夕張高校の出願状況は既にご覧いただいていると思いますが、一般が25、推薦が1ということで、一応推薦についても面接試験は既に終わっていると。初めて市外からの生徒さんが入学する見込みということまでわかりました。

それで、令和7年度入学者の確保に向けても、可能な限り高校の生徒さんにご迷惑をかからない範囲で、地域で頑張っているところを積極的に表に報告しながら、生徒の確保を続けていきたいと考えております。

●芝木総務企画課長

他によろしければ、この程度でよろしいですか。

では皆様本日はお忙しいところ、ご確認いただき、ご審議いただきありがとうございました。

以上をもちまして令和5年度の総合教育会議を閉じさせていただきます。

《終了 17:20》